

事業番号	09 04 20	事業改善シート(27年度実施事業分)		<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	自給飼料増産対策事業			担当課	部局	農政部	
総合5か年計画	プロジェクト			課・室	園芸畜産課		
	施策の総合的展開	1-3夢に挑戦する農業 2 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産		E-mail	enchiku@pref.nagano.lg.jp		
				実施期間	H21 ~		

1 事業の概要

目指す姿	輸入飼料に依存しすぎない畜産経営を目指し、栄養価の高い県オリジナル品種の作付けや飼料用稲の活用により、自給飼料の増産を推進し、飼料高騰に負けない畜産経営を確立する。				
現状(予算編成時)	○輸入飼料価格の高止まりにより、畜産の経営費に占める飼料費の割合が増大している。 ○また、畜産物の販売価格は横ばいのため、飼料コストのアップが畜産経営を圧迫し、農家所得を減少させている。				
県が関与する理由	県関与の必要性あり 県民との協働による実施： 実施中	【左記の説明、根拠法令等】 第2期長野県食と農業農村振興計画(自給飼料増産プロジェクト) 県が、国庫事業の活用推進を図りながら、事業を進めることが効果的である。			
成果目標・事業内容	① 成果目標(H27) 自給飼料を増産するため、次の取組を行う。 ○県オリジナル飼料作物モデルほ場の設置(県下4箇所) ○県オリジナル品種の作付拡大(20ha) ○飼料用稲の作付拡大(20ha)				
	② 事業内容 (単位:千円)				
	項目	実施方法	H27事業実績	H27(当初)	H27(決算)
推進事業	直接	①自給飼料増産推進会議の開催 ②モデルほ場の設置 ③飼料づくりコーディネーターの設置	2,845	1,942	2,839
		合計	2,845	1,942	2,839

事業コスト	区分(単位:千円)	25年度	26年度	27年度	28年度	成果目標の達成状況					
	前年度繰越	-	-	-	-	項目	H26末(実績)	H27			H28目標
	当初予算	11,669	2,890	2,845	2,839			目標	成果	達成状況	
	補正予算	-3,896				モデルほ場の設置	4箇所	4箇所	4箇所	達成	4箇所
	合計(A)	7,773	2,890	2,845	2,839	県オリジナル品種の作付拡大	48ha	20ha	26ha	達成	-
	一般財源	4,354	1,601	1,601	1,488	飼料用稲の作付拡大	86ha	20ha	192ha	達成	-
	県債					農家1戸あたりの飼料作付面積	-	-	-	-	830a
	国庫支出金	2,730									
	その他	689	1,289	1,244	1,351						
	決算額(B)	7,510	2,550	1,942							
職員数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30							
人件費単価	8,258	8,258	8,276	8,276							
概算人件費(C)	2,477	2,477	2,483	2,483							
概算事業費(B(A)+C)	9,987	5,027	4,425	5,322							

目標に対する成果の状況	自給飼料の増産に向けたモデルほ場を設置するとともに、モデルほ場における県オリジナル品種の実証により、県オリジナル品種の作付が目標以上に達成できた。飼料用稲については、稲作農家とのマッチングの推進により、大幅に作付を拡大することができた。
-------------	--

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input checked="" type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施
	まだまだ輸入飼料の割合が高く国産飼料の割合は低く、さらに輸入飼料価格の高止まりにより農家経営を圧迫していることから、優良品種のモデルほ場を設置し普及推進に努めるとともに、飼料づくりコーディネーターや栽培指導員のサポートにより耕種農家とのマッチングを推進し、自給飼料の増産を図りたい。